

学生の意見をもとにした授業研究

教育学部教育心理学教室・相模健人

I. はじめに

筆者はこれまで Solution-Focused Approach の質問技法であるスケーリングクエスチョン (Scaling Question) を用いた授業研究を多く行ってきた。また近年は Solution-Focused Approach の考えを用いて、学校現場に介入する手法として WOWW (Working On What Works うまく行っていることに取り組む) アプローチを導入した研究も行っている。ところで筆者は講義最終回において学生に最終授業評価アンケートを行い、学生に「あなたが同級生、後輩にこの授業を薦めるとしたらどんなことを言って薦めますか？」といったこの授業を薦める理由を尋ね、逆に「あなたが同級生、後輩にこの授業を薦めないとしたらどんなことを言って薦めませんか？」といった進めない理由についても尋ねている。本稿ではこの質問での学生の回答をもとに学生の視点から見た授業の評価する点、また改善点について考えていくことを目的とする。

II. 方法

1. 授業について(平成 21 年度後期)

- ①授業名：教育臨床心理学（授業者：相模健人）
- ②授業時間：前期は木曜 5 時限（午後 4 時 30 分～6 時 00 分）に行った。
- ③授業期間：前期は平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 1 月 28 日に行った。途中、学生必修の英語試験と年休による 2 回の休講をやむなく入れている。全 13 回である。
- ④受講登録者数：教育学部の学生 1 年生を主な対象とし、登録者数は 37 名であった。
- ⑤講義教室：教育学部 201 講義室で行った。
- ⑥授業内容：講義を基本とし、臨床心理学の基礎知識を教育と絡めながら行った。必要に応じて簡単な心理テスト、ビデオを用いた。最終 3 回については心理療法について学生が自分たちで調べ発表を行った。

2. 最終授業評価アンケートについて

講義最終回である平成 22 年 1 月 28 日に実施。

その日の授業出席者である 33 名が回答した。

最終授業評価アンケートは 7 問の回答からなっている。質問 1 は「この授業全体を 1 を『わからない』、10 を『わかりやすい』とするといくつでしたか？」と授業の理解度について 10 段階評価で尋ねた。平均値は 7.76 であった。質問 2 には「授業内に行った以下の項目で授業理解に役立ったものにはどれでしょうか」と授業内で行った項目について選択してもらった。質問 3 は「問 1 の答えになった理由をお書きください(賛否含めます)」と尋ね、10 段階評価の理由について賛否含めて尋ねた。質問 4 は「あなたが同級生、後輩にこの授業を薦めるとしたらどんなことを言って薦めますか？」と授業を薦める理由について尋ねた。質問 5 は「あなたが同級生、後輩にこの授業を薦めないとしたらどんなことを言って薦めませんか？」と授業を進めない理由について尋ねた。質問 6 では「あなたが授業者として、この授業を学生にとって今よりも必要な授業とするためにどんなことを具体的にしますか？」と授業者の視点からの改善点について尋ねた。質問 7 は「その他、ご意見、ご感想を自由にお書きください」と自由に意見を書く欄を設けた。

3. 結果の整理

前述の最終授業評価アンケートの質問 3, 4 について主な学生の意見について考察を加える。学生の意見は明らかな誤字脱字を除いて、アンケート記載の原文を用いていることを断わっておく。括弧内は筆者による注である。

III. 結果と考察

まずは質問 3 の授業を薦める理由から見ていきたい。

学生の意見としては、「心理に興味があるのなら、広い内容を知ることができるので、最適な授業です」、「心理学に興味がある人にはぜひ薦めたい」、「心理的なものについて分かりやすく面白く教えてもらえるし、ぜひ受けてみるといいよ」といった心理学に興味を持っている人に薦める意

見が多く見られる。また「臨床心理学についてかみくだいて教えてもらえる」、「臨床心理学の基礎について学ぶことができる」といった臨床心理学に興味を持つ人に薦める意見が多く見られる。やはり心理学、臨床心理学が学べることが授業の評価となっているようである。また基礎的な知識を扱うことから「興味を持てるし、面白いから」といった意見もあり、学生が臨床心理学に興味を持つことが分かる。

またそのように臨床心理学を学ぶことにより「心理学について勉強することによって、自分の考え方が変わるよと言って薦める」といった学生自身の考え方の変化を実感しているようである。また「全ての内容が『自分だったらどうだろう…』と考えられた」と自分に当てはめて考えたり、「教師になる、ならないにかかわらず、将来役に立つと思う。心理学に興味があるならぜひ…!」、「人生のためになるよ!と言って薦めたいです」といった自分自身に役立つことについて述べている者も見られた。

このような知識を得ることで学生も「自分のもつ生徒、自分の子どもの発達や状況を知る手がかかりになるよ!」や「教員になったときに子どもや保護者にどう関わってあげればいいのか役立つ内容だと伝える」といった将来教員になったときに授業で得た知識を役立てようとしていることが伺える。また、「子どもだけでなく保護者の方と接する時も役に立つ知識です」と保護者対応も見据えた意見が見られる。臨床心理学の知識を教育に則して抗議していることも「教育に促して話して下さるので教員になる人におすすめです」と評価されているようである。

また、事例を取り上げて、その経過を詳しく話したことが「特支（特別支援の略）はこの授業は取らなくていいのだが、取ってよかったと思う。適切な治療をすれば患者さんはだんだんと良くなってくる。これからの学習にも生かせると思う」といった意見に表れ、自分の専門分野にあてはめて薦める者もいる。

加えて授業形式も「ビデオを見せてもらえたり、事例もたくさん紹介してくれるから分かりやすい」、「PP（パワーポイントの略と思われる）も非常にわかりやすく、ビデオも非常におもしろかったと薦めたい」といったビデオや事例を中心とした授業を評価する意見も多い。またそれをパワーポイントを使ったプレゼンテーションで行っていることも評価されている。加えて「資料やプリントが多くてわかりやすいよ」といった資料について授業内で適切に用いていることも評価され

ている。

最終 3 回の学生が発表を行う授業についても「自分でプレゼンをするために調べることでより深く知ることができる」と評価する意見が見られる。

また毎回授業評価を行い、改善に努めていることから「生徒の意見もきちんと反映してくれると言って薦める」といった筆者の姿勢を評価するものもある。筆者については他にも「先生が比較的熱心である」、「先生は面白い」といった意見もあり、授業者の評価も見られる。

これらに対して質問 4 の授業を薦めない理由から授業の改善点を考えていきたい。

まず「全て講義形式であり、ある程度人間について興味がないと受講し続けることは困難であり、失礼であること」や「もし心理学に興味がないのなら、心理学用語がたくさん出てくるので薦めません」といった心理学や人間に興味がないと受講が難しいという意見が多く見られ、より幅広く学生が興味を抱くような授業内容が求められる。また臨床心理学の基礎的知識を主な内容としているが、講義形式に偏っているため、何かしらのワーク的な内容も今後授業に取り入れることも求められると考える。現在、簡単な心理テストは取り入れているがこうした授業内容の充実が必要であろう。

また「最後の方の授業で行う発表が大変かもしれない」と述べている学生もおり、授業内での発表は重要と考えているが、授業者の学生への発表への手助けもより必要となるかもしれない。

また「5 限帯だからつらいよ」といった授業の時間帯についての記述も多く見られ、学生にとっては木曜日の授業は 1 限帯にあった後、この 5 限までなく、その辺が学生は受講しにくい理由とも考えられる。この件については改善が求められるが、筆者も他授業やゼミ、大学院生へのカウンセリング指導など多忙を極めており、当面はこの時間帯しか取れず、やむを得ないところである。また「必修じゃないよ!」との意見もある。

しかし、基本的には「授業をまじめに受講しないなら薦めません」や「やる気がないと、しんどくなります」といった学生自身の姿勢を問う意見が多く見られた。また「薦めないことはない」やこの質問については回答がない者も多く見られ、相対的には授業として高く評価されていると考える。

このような授業評価をもとにより学生にとって有益で必要な授業へと改善していきたいと考えている。